

虎…宣王 (楚国の王)

狐…昭奚恤 (宣王から北方を治めるように命じられた大臣)

百獸…周囲の国 (当時、楚国の北方にあった、魏及び趙の国)

『戦国策』でこのたとえを語る男

江乙 (遊説家)

宣王「北方の魏と趙が、昭奚恤を恐れているという噂は本当か？」

教科書本文を江乙が語る。

江乙「いいえ、昭奚恤の後ろで目を光らせている王様が怖いのです。」

◎江乙がここで「はい」と答えると王を侮辱することになる。「いいえ」と答えると昭奚恤に疎まれることになる。しかし、北方にいるのでわからない。この話で一番のキツネは、江乙なのかもしれない。



がおお!

宣王

睨みを利かす。



昭奚恤

実は背後の虎が怖い

威張る。



北方の魏、趙の国  
(百獸たち)

次ページ・五十歩百歩について

五十歩しか違わない (大差ない) という意味であり、倍の違いがある (大差) という意味ではないことに注意する。

誤字に注意

狐



爪 ×

瓜 ○

置き字に注意 □の部分

填然鼓之 曳兵而走

百步而後止 五十步而後止

(書き下しの時) 助詞と助動詞は、

ひらがなにすること! P 327

「不可。直不百步耳。是亦走也」

不…打消の助動詞「ざる」

耳…限定の助詞「のみ」

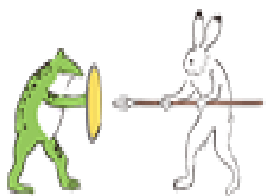
也…断定の助動詞「なり」

※教科書 P 326 「走」について。負けて逃げる「敗走」が思い浮かぶだろうか。また「敗北」という熟語の「北」はこの

熟語の場合、方角ではなく、「北げる」(逃げる) という動詞で読む漢字でもある。

**矛盾** むじゆん

矛盾…銅器から鉄器へと変わっていく時期に、武器商人が丈夫な鉄製武器を売り込むために使われた商売文句か？槍から全身を守るための盾ではあまりにも重すぎるため、上半身だけを守れる（自分の腕力だけで持てる）大ききだったと言われる。（左図参照）



**推敲** すいこう

「題李凝幽居」

李凝の幽居に題す

閑居少隣並  
草徑入荒園  
鳥宿池邊樹

僧敲月下門

僧は敲(たた)く 月下の門

過橋分野色  
移石動雲根  
暫去還來此  
幽期不負言

橋を過ぎて 野色(やしよく)を分かち  
石を移して 雲根(うんこん)を動かす  
暫く去りて 還(ま)た此に來たらん  
幽期 言に負(そむ)かず

敲いたら寝ていた鳥が起きるじゃないか！という説もある。

園(おん) 偶数句末に、発音が似た字を入れる。  
門(もん) ↓ 押韻(おういん)  
根(こん) レポート⑨で詳しく学ぶので覚えておくこと。  
言(ごん)

**助長** じゆちやう

「守株」にも出てきた「宋人」が行ったこと。とかく「宋人」は愚かな民族として描かれることが多い。

**漁夫の利** ぎよふのり

漁夫の利…実際に戦おうとしたのは「趙」の国と「燕」の国。ただ、「趙」の国の家来が、恵王に「両国が争って、人民が疲弊したあとに、秦の国が攻めて來たらどうするのか」と諫めたため、恵王は「燕」の国を攻めるのを思いとどまった、という話。

**朝三暮四** ちやうさんぼし

朝4つ



夕3つ



↑ 猿たちは朝早くに、たくさん食べられた方が得！と考えた。

**その他**

**朝盈夕虚** ちやうえいせきこ

朝開暮落(人の一生は儂いということのたとえ)、朝改暮変・朝令暮改(命令や制令、法律などがすぐに変わっ

てしまい、しっかりと定まることがないこと。)など、「朝○暮×」という四字熟語は、一日のうちで変化が起るほど短くて儂いことを表すものが多いことが分かる。